

令和 2 年 6 月 29 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04924

研究課題名(和文) 発達障害等の発達困難を有する非行少年の実態解明と発達支援構築に関する実証的研究

研究課題名(英文) Substantial Study on Actual Situation and Developmental Support Construction of Youth with Juvenile Delinquent Having Developmental Difficulties such as Developmental Disabilities

研究代表者

高橋 智 (TAKAHASHI, Satoru)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：50183059

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、少年院に在院する発達障害等の発達困難を有する非行少年を対象に、彼らの抱える発達困難や支援ニーズについて面接法調査を実施した。調査を通して、少年の抱える各種の発達困難や不安・ストレス等について丁寧に話を聴きながら、「不安の原因の可視化」「問題の共有」「解決方法とともに考えていく」という「対話的で伴走的な発達支援」の有効性について確認できた。さらに効果を上げていくために、少年院の基礎的環境整備、合理的配慮に基づく発達支援の提供、学校教育の導入などが必要な改善課題である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、これまでに実施してきた発達上の課題・困難を有する少年院在院者に対する面接法調査(少年院3施設、のべ180名、2016年～2019年実施・現在も継続中)をもとに、少年院在院者の支援ニーズと発達支援の視点から、「発達上の課題を有する在院者に対する処遇プログラム実施ガイドライン」の意義・有効性および改善課題を明らかにした。少年の更生・育て直しに向けた支援を行う少年院において、発達支援の観点から処遇のガイドラインが示されたことは大きな意味をもつ。さらに学校教育の導入、現代に適合する基礎的環境整備や合理的配慮に基づく発達支援の提供等が、当面する緊要な改善課題である。

研究成果の概要(英文)： In this study, we conducted interview surveys on the developmental difficulties and support needs of residents with developmental disabilities who are in the juvenile training school.

Through the surveys, while carefully listening to various developmental difficulties, anxiety, stress, etc. that residents with developmental disabilities have, "visualizing the cause of anxiety," "sharing problems," "thinking together solutions" "interactively accompanying We were able to confirm the effectiveness of "developmental development support".

In order to further increase the effect, it is necessary to improve the basic environment of the juvenile training schools, provide developmental support based on rational consideration, and introduce school education.

研究分野：特別ニーズ教育、特別支援教育、発達教育学、発達相談臨床、北欧の特別ケア

キーワード：少年院 発達困難 発達障害 発達支援 非行少年 少年矯正 学校教育 北欧

1. 研究開始当初の背景

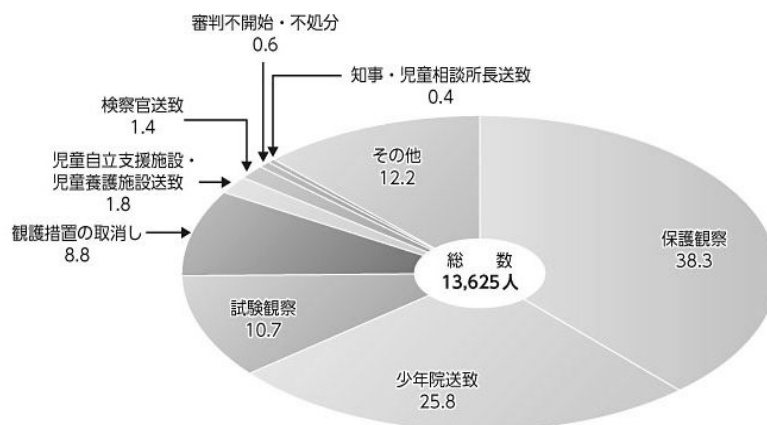
近年、発達障害と学校不適応やいじめ・被虐待、非行・触法との関係が注目されてきており、児童養護施設・児童自立支援施設・自立援助ホームや少年鑑別所・少年院にも ADHD・アスペルガー症候群などの発達障害等の発達困難を有し、特別な配慮を要する子どもが少なからず入所していることや発達障害に対する無理解や不適切な対応の結果、二次的障害の一つとして非行に至ることが徐々に明らかとなってきている。

矯正教育機関である少年院は、対象少年の発達の状況を理解した上で、非行の反省や結果に対する責任の自覚を促すこととなっているが、最近ではコミュニケーション能力の低さや共感性、感情統制の困難など「処遇や指導が入りにくい」「理解しにくい」少年の存在が指摘されている。

それらの特性をもつ少年に対しては医療少年院を中心として「相互の理解、問題の解決、怒りの扱い」を身につけていく「セカンドステップ」、協調性を育む「コーディネーショントレーニング」なども行われている(大門:2013)。しかし、家庭裁判所の審判の結果、少年院送致となるのは2割程度にすぎず、ほとんどが保護観察処分等で家庭や地域で非行後も生活を送っているため、保護観察となり学校生活や就労をしている少年の把握や支援も看過できない課題である(図1)。

少年院に入院する少年もいずれ社会に出て行くが、西村(2008)は、発達障害や知的障害等を有する少年について矯正施設を出た後の環境調整や受け入れの困難さ、家族調整の必要性について指摘しており、うまく帰住調整ができたとしても、彼らが実際に少年院出院後の自立や社会適応に向けた具体的スキルの獲得を行う過程での困難や出院後に社会に適応できず、再非行に至る可能性も少なくないと考えられる。

発達障害等を有する非行少年に対する「特別調整」の実施や2014(平成26)年6月の少年鑑別所法の成立および少年院法の大幅改正により、彼らに対する地域移行支援や矯正施設退所後のアフターケア、地域全体への非行防止対策などに今後力が入られる方向となってきている。そのような体制整備の状況に加え、少年非行全体で再非行率が上昇している現状からも、更生保護施設等への移行支援や地域・学校や専門機関連携を含めた継続的な支援は緊要の課題と考えられる。



注 1 矯正統計年報による。
2 「その他」は、逃走、施設間の移送、同行指揮書等により退所した者である。

図1 「少年鑑別所退所者の退所事由別構成比」(法務総合研究所『犯罪白書平成25年版』)

非行・犯罪の周辺領域における発達障害等の発達困難を有し、特別な配慮を要する少年の社会的自立等に向けた適切な支援を考えていくためには、少年鑑別所の鑑別や少年院での処遇だけ

でなく、学校教育の保障や矯正教育施設退所後の地域移行支援・地域生活定着支援の保障が不可欠である。

2．研究の目的

本研究では、非行少年の矯正教育・保護更生機関である全国 51 庁の少年院、全国 82 ヶ所の保護観察所・更生保護施設等、全国 48 ヶ所の地域生活定着支援センターの職員調査、発達障害等の発達困難を有する非行少年本人への発達支援・地域移行支援のニーズ調査、発達障害等の発達困難を有する非行少年の発達支援・更生保護において先進的な取り組みを行っている北欧スカンジナビア諸国の発達支援、地域移行・地域生活定着支援調査を通して、発達障害等の発達困難を有する非行少年が抱える困難・ニーズやそれに対する支援の実態を明らかにするとともに、矯正教育・保護更生において求められている発達支援、地域移行支援・地域生活定着支援のシステム構築の課題を検討していく。

本研究を通して、矯正教育・保護更生分野における発達障害等の発達困難を有する少年に対する発達支援の実態が明らかとなり、今後における特別支援教育と矯正教育・保護更生の連携・協働のあり方が具体化する。

3．研究の方法

(1) 発達障害等の発達困難を有する非行少年の発達支援・更生保護において先進的な取り組みを行っている北欧スカンジナビア諸国の発達支援、地域移行・地域生活定着支援調査を実施する。

(2) 全国 51 庁の少年院職員、全国 82 ヶ所の保護観察所等職員、全国 48 ヶ所の地域生活定着支援センター対象の訪問面接法調査を実施し、発達障害等の発達困難を有する非行少年の困難・ニーズの実態や自立に向けた発達支援の現状を明らかにする。

(3) 矯正教育・更生保護を経験した発達障害等の発達困難を有する少年本人への発達支援・地域移行支援のニーズ調査を通して、少年本人が求めている少年鑑別所・少年院・保護観察所・更生保護施設・地域生活定着支援センターにおける発達支援・地域移行支援・地域生活定着支援の課題を明らかにする。

4．研究成果

(1) 内藤千尋・小山定明・佐野雅之・田部絢子・高橋智(2018)少年院における発達上の課題を有する少年の困難・支援ニーズの実態と発達支援の課題 「支援教育課程 (N3)」在院者への面接法調査を通して、『矯正教育研究』第 63 巻、pp.134-142、日本矯正教育学会

本研究は、A 少年院において「支援教育課程 (N3)」に指定された男子少年 26 名(のべ実施数 34 名)への半構造化面接法調査および担任等の法務教官との協議を通して、少年院における発達障害等の発達上の課題・困難を有する少年の困難・支援ニーズの実態や発達支援を充実させていくための課題を検討した。

発達障害等の発達上の課題・困難を有する非行少年は、少年院における 24 時間体制の安定した支援を通して、心身ともに安心できる生活環境・人間関係を確保されていた。生活リズムの整った生活環境(衣食住と健康)の保障と法務教官に「しっかりと向き合ってもらい、話を聴いてもらう」指導を通して、少年らの行動の背景にある「不安・緊張・ストレス等」を軽減し、それまでの生活の中で喪失していた「自己と他者への信頼」を回復させ、発達を一気に加速させたと考えられる。少年院における処遇の在り方を検討するにあたり、彼らの発達の課題を支援していく「伴走的発達支援」の意義と効果を検証していくことと、『発達上の課題を有する在院者に対

する処遇プログラム実施ガイドライン』をふまえた対応の具体化が不可欠である。

(2) 高橋智・内藤千尋・田部絢子(2019) 北欧における非行・触法・薬物依存等の発達困難を有する子ども・若者の発達支援の動向 アイスランドとフィンランドの訪問調査から、『矯正教育研究』第64巻、pp.93-100、日本矯正教育学会

本稿では、非行・触法・薬物依存等の発達困難を有する子ども・若者の発達支援において先進的な取り組みを行っているアイスランドとフィンランドを取り上げ、国立の子ども教育施設「スタドラ—Stuðlar」(アイスランド)、国立の子ども教育施設「ヴオレラ教育施設 Vuorelan koulu」(フィンランド)、非行・触法・薬物依存等の発達困難を有する子ども・若者(12~21歳)対象の自治体行政サービス「子ども・若者チーム Nuorten Tiimi」(フィンランド)の取り組みを紹介し、それをふまえて日本における非行・触法等の不適応に至っている発達上の課題・困難を有する子ども・若者の発達支援の課題を検討した。

非行・触法等の不適応に至っている発達上の課題・困難を有する子どもに直接的な責任を求めるのではなく、子どもを取り巻く環境システム(家庭・学校・教師・地域・友人等)に対する支援(環境調整)を充実させていくことが日本の当面する重点課題の一つであると考えられる。非行・触法等の不適応に至っている発達上の課題・困難を有する子ども・若者の支援を、学校教育を保障しながら地域のなかで継続して行うことが彼らとその家族を社会から切り離さないことに繋がるのであり、学校教育を軸とする地域支援システム構築の具体的な検討が日本において喫緊の課題となっている。

(3) 内藤千尋・田部絢子・高橋智(2020)「発達上の課題を有する在院者に対する処遇プログラム実施ガイドライン」の検討と改善課題 発達上の課題・困難を有する少年院在院者への面接法調査を通して、『矯正教育研究』第65巻、pp.114-121、日本矯正教育学会

本稿では、筆者らがこれまでに実施してきた発達上の課題・困難を有する少年院在院者に対する面接法調査結果(少年院3施設、のべ160名、2016年~2019年実施・現在も継続中)をもとに、少年院在院者の声・支援ニーズと発達支援の視点から、「発達上の課題を有する在院者に対する処遇プログラム実施ガイドライン」の意義・有効性および改善課題(少年院の教育環境、支援内容・方法)を明らかにした。

少年の更生・「育て直し」に向けた教育・支援を行う少年院において、発達(発達支援)の観点から処遇が再検討されていることや処遇のガイドラインが示されたことは大きな意味をもつ。その上でさらに、学校教育の導入、現代に適合する基礎的環境整備や合理的配慮に基づく発達支援の提供、少年本来の「良さ」を半減させてしまう少年院独特のルール等が、当面する緊要な改善検討課題である。

今回は少年院における発達支援のあり方を検討するにあたり、ガイドラインを一つの基準とした。ガイドラインでは支援教育課程(N2)がその主対象となっているものの、筆者らの面接では、教育課程の違いにかかわらず、発達上の課題・困難を有し支援が必要な少年が、実に数多く在院していた。こうした少年は、発達障害の診断・判定の有無にかかわらず、「支援教育課程」のみならず、どこの少年院にも多数入院していることは想像に難くない。

処遇課程にとらわれず、彼らの成長・発達を保障していくためには、ガイドラインの視点と内容をふまえた見立てと対応の工夫、実際の取り組みと振り返りを実施していくことが肝要である。発達上の課題・困難を有する少年に対してすべて高度な専門性や個別プログラム、個別の取り出しが求められるわけではなく、少年の言動の背景にある多様な不安・緊張・恐怖・

抑うつ・ストレス等をまずは受けとめ、少年とともにその不安等の背景要因を明らかにし、解決方法を一緒に考えていく「対話的」「伴走的」な発達支援を行うことが求められている。

(4) 高橋智・内藤千尋・田部絢子(2020)少年院における発達上の課題・困難を有する少年への面接・発達相談の試み、『刑政』第131巻4号、pp. 42-51、公益財団法人矯正協会

178名の少年に対する面接・発達相談を通して、少年の抱える各種の発達困難や不安・ストレス等について丁寧に話を聴きながら、「不安の原因の可視化」「問題の共有」「解決方法をともに考えていく」という「対話的で伴走的な発達支援アプローチ」の有効性について実感している。少年はその過程で「安心」「信頼」を回復し、教官の指導を受け止め、発達支援の意義を理解できるようになったため、少年の成長・発達を一気に加速させていくのである。

少年の「育て直し・更生・社会復帰」に向けた教育支援を行う少年院において、ガイドラインが示しているように、発達支援の観点から処遇について再検討されていることは大きな意味をもつ。その上でさらに、現代に適合する基礎的環境整備、合理的配慮に基づく発達支援の提供や少年院独特のルールの改善、学校教育の導入等が、当面する緊要な改善課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 6743
2. 論文標題 ゆっくりと確実に立ち直る非行少年 発達困難のある少年院在院の少年（上）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 6-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 6745
2. 論文標題 強い不信・抵抗感を少しずつ克服 発達困難のある少年院在院の少年（下）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智	4. 巻 49
2. 論文標題 少年非行・矯正教育機関における発達障害問題の実態と発達支援に関する調査研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 三菱財団研究・事業報告書	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川衣紀・内藤千尋・田部絢子・石井智也・能田昴・柴田真緒・池田敦子・田中裕己・高橋智	4. 巻 71
2. 論文標題 北欧における子どもの虐待と「子ども虐待防止支援センター（Barnahus）」の取り組み：デンマーク・フィンランドへの訪問調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要総合教育科学系	6. 最初と最後の頁 177-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智	4. 巻 65
2. 論文標題 「発達上の課題を有する在院者に対する処遇プログラム実施ガイドライン」の検討と改善課題 発達上の課題・困難を有する少年院在院者への面接法調査を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 矯正教育研究	6. 最初と最後の頁 114-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・石井智也・池田敦子・柴田真緒・能田昂・田中裕己・高橋智	4. 巻 8
2. 論文標題 北欧と日本の児童虐待防止システムの実態と課題に関する比較調査研究 北欧の「子どもの権利擁護センターBarnahus」を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 FERI未来教育研究所紀要	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 131(4)
2. 論文標題 少年院における発達上の課題・困難を有する少年への面接・発達相談の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 刑政	6. 最初と最後の頁 42-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田部絢子・内藤千尋・石川衣紀・石井智也	4. 巻 第6667号
2. 論文標題 フィンランドの刑務所での発達支援 北欧における子ども・若者の特別ケアの動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田部絢子・内藤千尋・石川衣紀	4. 巻 第6687号
2. 論文標題 ノルウェーの女性刑務所と若者支援 北欧における子ども・若者の特別ケアの動向23	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田部絢子・内藤千尋・石川衣紀・柴田真緒	4. 巻 第6690号
2. 論文標題 薬物依存症者を親に持つ当事者支援 北欧における子ども・若者の特別ケアの動向24	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田部絢子・石井智也・能田昂	4. 巻 第6691号
2. 論文標題 子どもの権利擁護センターの取り組み 北欧における子ども・若者の特別ケアの動向25	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田部絢子・内藤千尋・石川衣紀	4. 巻 第6692号
2. 論文標題 「若者支援センター」の取り組み 北欧における子ども・若者の特別ケアの動向26	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・石川衣紀・石井智也・能田昂・柴田真緒・神長涼・高松健太・高橋智	4. 巻 第70集
2. 論文標題 北欧における子どもの虐待と権利擁護センターの取り組み スウェーデン・アイスランド・ノルウェーへの訪問調査から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要総合教育科学系	6. 最初と最後の頁 265-279
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 第64巻
2. 論文標題 北欧における非行・触法・薬物依存等の発達困難を有する子ども・若者の発達支援の動向 アイスランドとフィンランドの訪問調査から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 矯正教育研究	6. 最初と最後の頁 93-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・堀田らな	4. 巻 第46巻4号
2. 論文標題 鈴木航氏自死裁判にみる障害者雇用における障害者の尊厳	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 障害者問題研究	6. 最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・高橋智	4. 巻 62
2. 論文標題 北欧における非行・薬物依存・犯罪を有する青少年の発達支援の動向 スウェーデン・デンマークの当事者支援を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 矯正教育研究	6. 最初と最後の頁 108-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智	4. 巻 29
2. 論文標題 非行と発達障害等の困難を有する青少年の立ち直りと地域移行支援に関する調査研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 マツダ研究報告書 青少年健全育成関係	6. 最初と最後の頁 29-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 25
2. 論文標題 発達障害等を有する非行少年の立ち直り支援と地域移行支援に関する調査研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 調査研究報告書 豊かな高齢社会の探究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 発達障害等の発達困難を有する非行少年の社会的自立・地域移行の実態と支援に関する調査研究 全国の保護観察所職員・保護司等の調査から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 SNEジャーナル	6. 最初と最後の頁 119-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 6630
2. 論文標題 少年鑑別所における取り組み 発達上の課題・困難を有する非行少年への発達支援	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 6632
2. 論文標題 少年院における取り組み 発達上の課題・困難を有する非行少年への発達支援	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 6633
2. 論文標題 少年院在院者の声に探る支援の課題 発達上の課題・困難を有する非行少年への発達支援	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 6634
2. 論文標題 保護観察所・保護司等の取り組み 発達上の課題・困難を有する非行少年への発達支援 (完)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田部絢子・内藤千尋・石川衣紀	4. 巻 6639
2. 論文標題 スウェーデンの国立非行少年教育施設 北欧における子ども・若者の特別ケアの動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋	4. 巻 6641
2. 論文標題 アイスランドの非行少年への発達支援 北欧における子ども・若者の特別ケアの動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田部絢子・内藤千尋・石川衣紀	4. 巻 6643
2. 論文標題 フィンランドの非行少年への発達支援 北欧における子ども・若者の特別ケアの動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田部絢子・内藤千尋・石川衣紀	4. 巻 6646
2. 論文標題 スウェーデンなどでの非行等の当事者支援 北欧における子ども・若者の特別ケアの動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智	4. 巻 69
2. 論文標題 発達障害等の発達上の課題・困難を有する非行少年の地域移行・定着の実態と支援に関する調査研究 全国の保護観察所・更生保護施設・保護司等の調査から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要総合教育科学系	6. 最初と最後の頁 57-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・小山定明・佐野雅之・田部絢子・高橋智	4. 巻 63
2. 論文標題 少年院における発達上の課題を有する少年の困難・支援ニーズの実態と発達支援の課題 「支援教育課程（N3）」在院者への面接法調査を通して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 矯正教育研究	6. 最初と最後の頁 134-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・池田敦子・高松健太・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 北欧における子ども虐待の実態と防止支援システムの研究 北欧5カ国の「子ども虐待対応センターBarnahus」等の訪問調査から
3. 学会等名 日本教育学会第78回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 「発達上の課題を有する在院者に対する処遇プログラム実施ガイドライン」の検討と改善課題 発達上の課題・困難を有する少年院在院者への面接法調査を通して
3. 学会等名 日本矯正教育学会第55回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 発達困難を有する非行少年の発達支援に関する動向と課題 少年院法改正（2015年）以降の施策・研究・実践
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会第25回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井智也・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・能田昂・柴田真緒・池田敦子・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 スウェーデンの多様な発達困難を有する若者支援：BRISへの訪問調査を通して
3. 学会等名 日本子ども学会学術集会第16回子ども学会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井智也・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・能田昂・柴田真緒・池田敦子・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 スウェーデンにおける多様な発達困難を有する若者の発達支援 「BRIS (Barnens R¨t t l Samh¨llet社会における子どもの権利)」への訪問調査から
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第8回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 発達上の課題・困難を有する非行少年の支援ニーズと発達支援の課題 少年院在院者の面接法調査から
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第8回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 能田昂・石井智也・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・柴田真緒・神長涼・高松健太・高橋智
2. 発表標題 ノルウェーにおける子どもの虐待と「子どもの権利擁護センター (Barnehus Oslo)」の取り組み
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柴田真緒・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・石井智也・能田昂・神長涼・高松健太・高橋智
2. 発表標題 ノルウェーにおける薬物依存症の子どもの当事者ネットワーク
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神長涼・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・高松健太・高橋智
2. 発表標題 フィンランドにおける「若者支援センター」の取り組み
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀田らな・高橋智
2. 発表標題 罪を犯した障害者の訴訟能力に関する研究
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤千尋・柿崎伸二・小山定明・菅谷裕・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 少年院における発達上の課題を有する少年の困難・支援ニーズの実態と発達支援の課題（その2） 「支援教育課程（N3）」在院者への面接法調査を通して
3. 学会等名 日本矯正教育学会第54回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 発達上の課題・困難を有する非行少年の発達支援の課題 少年院在院少年の面接法調査を通して
3. 学会等名 日本子ども学会学術集会第15回子ども学会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・神長涼・高松健太・高橋智
2. 発表標題 北欧における児童虐待の実態と防止支援システムの研究 北欧三カ国の「子どもの権利擁護センターBarnahus」の訪問調査から
3. 学会等名 日本子ども学会学術集会第15回子ども学会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 発達障害等の発達上の課題・困難を有する非行少年の実態と発達支援の課題 B少年院に在院する少年調査を通して
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会第24回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 少年院在院者の面接法調査からさぐる発達上の課題・困難を有する非行少年の支援ニーズと発達支援の課題(その2)
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第7回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 発達障害等の発達困難を有する非行少年の発達支援・地域移行支援に関わる研究の動向と課題
3. 学会等名 日本教育学会第76回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 企画者：高橋智・田部絢子・内藤千尋・石川衣紀・石井智也・能田昂・柴田真緒・神長涼、司会者：高橋智、話題提供者：内藤千尋・石川衣紀、指定討論者：金子陽子・小山定明
2. 発表標題 アイスランド・フィンランドにおける「非行・触法・薬物依存等」の発達困難を有する青少年への発達支援の取り組みと日本の課題
3. 学会等名 日本特殊教育学会第55回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 更生保護における発達上の課題を有する非行少年への支援の現状と課題（その1・2） 全国の保護観察所職員・保護司等の調査を通して
3. 学会等名 日本特殊教育学会第55回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内藤千尋・高橋智
2. 発表標題 発達障害等の発達上の課題・困難を有する非行少年の発達支援に関する研究の動向と課題 児童福祉施設・矯正教育施設を中心に
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会第23回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 発達上の課題・困難を有する非行少年の発達支援の課題 少年院在院者への面接法調査から
3. 学会等名 日本子ども学会学術集会第14回子ども学会議
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・柴田真緒・石井智也・能田昂・神長涼・高橋智
2. 発表標題 北欧福祉国家における「非行・触法・薬物依存等」の発達困難を有する青少年への発達支援 アイスランド・フィンランドの調査から
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第6回学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 柴田真緒・高橋智	4. 発行年 2020年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 370
3. 書名 発達障害当事者の睡眠困難と発達支援の研究	

1. 著者名 高橋智・加瀬進監修 日本特別ニーズ教育学会編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文理閣	5. 総ページ数 318
3. 書名 現代の特別ニーズ教育	

1. 著者名 一般社団法人日本特殊教育学会 編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 一般社団法人日本特殊教育学会	5. 総ページ数 161
3. 書名 一般社団法人日本特殊教育学会学術用語集	

1. 著者名 田部 絢子・高橋智	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 347
3. 書名 発達障害等の子どもの食の困難と発達支援	

1. 著者名 加瀬進・高橋智 編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 一般社団法人放送大学教育振興会（NHK出版発売）	5. 総ページ数 240
3. 書名 特別支援教育総論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	内藤 千尋 (NAITO Chihiro)	松本大学・教育学部・専任講師 (33604)	
研究協力者	田部 絢子 (TABE Ayako)	金沢大学・人間社会研究域学校教育系・准教授 (13301)	